

山階芳麿賞について

山階鳥類研究所は、平成 4 (1992) 年 7 月に行われた財団創立 50 周年記念行事の一環としてこの賞を設けることにした。この賞は日本の鳥学及び鳥類保護に寄与された、財団法人山階鳥類研究所の創立者・故山階芳麿博士の功績を記念して、「山階芳麿賞」と名付けた。

山階芳麿賞は、国内において鳥学及び鳥類保護に顕著な功績のあったものを讃え、わが国の鳥学の発展並びに鳥類保護の振興に寄与することを目的としている。

受賞者は「山階芳麿賞」選考委員会で選考される。受賞者は、隔年度 1 名とし、選考の結果該当者がいない場合には、その年度の表彰は行わない。選考委員会は山階鳥類研究所所長が委員長を務め、山階鳥類研究所副所長、鳥学研究室長、理事及び評議員 (5 名以内)、学識経験者 (5 名以内)、その他理事長が必要性を認め適格と判断する者 (若干名) で構成される。受賞者の選考は、出席選考委員の過半数をもって決定する。

受賞者には、山階鳥類研究所総裁・秋篠宮文仁親王が表彰する予定で、表彰状と山階芳麿賞記念メダルを贈呈する。記念メダルのデザインは、表・山階芳麿博士肖像、裏・ヤンバルクイナのレリーフとなっており、受賞年と受賞者氏名が刻印される。ヤンバルクイナは沖縄県で発見され、昭和 56 (1981) 年に山階芳麿博士らが新種として発表した山階鳥類研究所のシンボルの一つ。なお、平成 15 (2003) 年度からはさらに副賞として「朝日新聞社賞」(賞金 50 万円と盾) が贈られている。

歴代受賞者については別紙を参照のこと。

山階芳麿博士の業績

山階芳麿博士 (1900～1989) は、幼い頃から鳥に興味を持っていたが、昭和 4 (1929) 年に動物学の基礎を学ぶため帝国大学 (現東京大学) 理学部動物学科選科に入学、同 6 (1931) 年に修了後、昭和 7 (1932) 年に山階鳥類研究所の前身である山階家鳥類標本館を設立した。その後、鳥類の研究に没頭し、積極的にアジア・太平洋地域の鳥類標本を収集し、分類研究を行った。昭和 14 (1939) 年から、北海道帝国大学 (現北海道大学) の小熊捍教授の指導を受けて鳥類の雑種不妊性の研究を行い、昭和 17 (1942) 年「鳥類雑種の不妊性に関する研究」で同大学から理学博士号を受けた。その後、引き続いて鳥類の染色体型の研究に取り組み、鳥類分類に染色体を利用する方法を導入、この成果を昭和 24 (1949) 年に「細胞学に基づく動物の分類」として出版した。この業績は、主観的な形態分類に代わる客観的な分類法として国の内外から高く評価され、これにより翌年、日本遺伝学会賞を受賞した。また戦後、国内の蛋白質不足が著しくなったことから、文部省から「ニワトリの増殖」について研究委託を受け、多産で肉質がよいニワトリの品種改良にも取り組み、このほかバリケンとアヒルの雑種ドバンの増殖研究にも力を入れた。その後、研究だけでなく、鳥類保護とその普及啓蒙にも熱意を注いだ。日本鳥学会会頭、日本鳥類保護連盟会長、国際鳥類保護会議副会長、同アジア部会長などの役職を歴任した。

同博士の主な著書には、「日本の鳥類と其生態」(第 1 巻 : 1933、第 2 巻 : 1941) があり、また「世界鳥類和名辞典」(1986) がある。「世界鳥類和名辞典」は世界の鳥類全種に和名を付けたもの。

昭和 52 (1977) 年に、鳥学の世界のノーベル賞とも言われる、ジャン・デラクール賞を受賞。翌 53 (1978) 年には「世界の生物保護に功績があった」としてオランダ王室から第 1 級ゴールデンアーク勲章を受けた。

山階芳廬賞 歴代受賞者

回数	氏名	所属・職名	受賞年月日	備考
第一回 (贈呈理由)	羽田健三	信州大学名誉教授 独創的な雁鴨(ガンカモ)科鳥類の群集生態学研究 鳥類生態学を志す後進の育成	平成 4 年 7 月 3 日	H 6 年 11 月逝去
第二回 (贈呈理由)	松山資郎	山階鳥類研究所顧問 元農林省主任研究官、元山階鳥類研究所事務局長・資料室長 応用鳥学・野生鳥類の保護管理に関する基礎的研究 野生鳥類保護管理に関する後進の指導	平成 5 年 7 月 5 日	H12 年 8 月逝去
第三回 (贈呈理由)	中村 司	山梨大学名誉教授 鳥類の渡りに関する生理学的研究 地元における鳥類保護・自然保護の推進	平成 6 年 7 月 5 日	
第四回 (贈呈理由)	黒田長久	山階鳥類研究所所長 鳥類の形態・生態に関する幅広い分野の研究 現代鳥学界における礎石的存在	平成 7 年 7 月 5 日	現・山階鳥類研究所名誉所長
第五回 (贈呈理由)	中村登流	上越教育大学名誉教授 鳥類社会学に関する長年の研究 鳥類社会学を志す後進の指導	平成 8 年 7 月 3 日	H19 年 11 月逝去
第六回 (贈呈理由)	正富宏之	専修大学北海道短期大学教授 我が国の動物行動学の発展に貢献 長年タンチョウの生態研究と保護に尽力	平成 9 年 9 月 9 日	
第七回 (贈呈理由)	樋口広芳	東京大学大学院教授 鳥類生態学に生物進化の多次元性を取り入れた研究 渡り鳥の人工衛星追跡調査手法を確立し鳥類保護に貢献	平成 10 年 7 月 4 日	
第八回 (贈呈理由)	山岸 哲	京都大学大学院教授 鳥類の社会生態学的研究の推進と オオハシモズ科の適応放散の研究と保護に貢献	平成 11 年 7 月 3 日	現・山階鳥類研究所所長

回数	氏名	所属・職名	受賞年月日	備考
第九回 (贈呈理由)	藤巻裕蔵	帯広畜産大学教授 エゾライチョウの野外研究を基にその飼育や保護管理に貢献 日本とロシアの鳥類研究者との交流を推進	平成 12 年 6 月 17 日	
第十回 (贈呈理由)	小城春雄	北海道大学大学院教授 北太平洋における海鳥の生態解明とその研究成果を基にした 海鳥保護の推進および後進の指導に尽力	平成 13 年 6 月 1 日	
第十一回 (贈呈理由)	中村浩志	信州大学教授 カッコウの宿主の共進化特に宿主転換と宿主に対応する托卵 系統の存在を明らかにし後進の指導に尽力	平成 14 年 6 月 7 日	
第十二回 (贈呈理由)	石居 進	早稲田大学名誉教授 鳥類の生殖腺刺激ホルモンの解明に取り組み、絶滅危惧種の 繁殖促進に貢献し、後進の指導に尽力	平成 15 年 9 月 23 日	
第十三回 (贈呈理由)	由井正敏	岩手県立大学教授 森林性鳥類の個体数推定の推定法を確立、森林と鳥類群集の 関係を基礎応用の両面から追究し、後進の指導に尽力	平成 16 年 9 月 23 日	
第十四回 (贈呈理由)	長谷川博	東邦大学教授 生態学と行動学の科学的知見をもとにアホウドリの個体数回復 を成功に導き、鳥類保護に関して社会に対する普及啓蒙を实践	平成 18 年 9 月 23 日	

第15回山階芳麿賞受賞者の紹介



- 【氏名】** 立川涼 (タツカワ リョウ)
- 【所属機関】** 愛媛県環境創造センター
- 【生年月日】** 1930年12月25日 ソウル生れ
- 【職名】** 所長
- 【連絡先】** 電話 愛媛県環境創造センター 089-941-2111 (内線 2014)
-
- 【学歴】** 1953年3月 東京大学農学部農芸化学科卒業
1958年3月 東京大学農学部大学院研究奨学生後期満了
1962年3月 農学博士 (東京大学)
- 【職歴】** 1958年4月 東京大学助手 (農学部農芸化学科土壌学)
1963年8月 米国オハイオ州立大学農学部アグロノミー学科
(米国原子力委員会リサーチ・フェロー) (～1964年10月)
1966年5月 愛媛大学助教授 (農学部農芸分析学)
1976年4月 愛媛大学教授 (農学部環境化学)
1987年4月 愛媛大学大学院連合農学研究科長 (～1991年3月)
1993年6月 愛媛大学農学部長 (～1995年5月)
1995年9月 高知大学学長 (～1999年9月)
2000年4月 愛媛県環境創造センター所長 (～現在)
- その他役職等
トヨタ財団理事、日本環境会議理事、愛媛大学運営諮問会議議長、鹿児島大学運営諮問会議議長、NPO 黒潮実感センター理事長、NPO ダイオキシン・環境ホルモン対策国民会議代表、NPO 四万十楽舎名誉楽長
- 【称号】** 1995年9月 愛媛大学名誉教授
1999年9月 高知大学名誉教授
- 【主な専門分野】** 環境化学

【研究業績】

● 原著論文 (鳥類に関するもの)

- Min, B. Y., Tatsukawa, R. and Won, P. O. (1981) Organochlorine compound residues in breeding and wintering grounds of endangered birds in Korea. *Bulletin of the Korean Association for Conservation of Nature*, 3: 229-239. (in Korean)
- 関丙允・田辺信介・立川涼・白石哲 (1984) 韓国産食虫性鳥類と魚食性チュウダイダギ *Egretta alba modesta* における有機塩素化合物の残留濃度. 九大農学芸誌, 39(2/3): 69-75.
- Ming, B. Y., Honda, K. and Tatsukawa, R. (1984) Biometry of growth and food habits of young of the Eastern White Egret, *Egretta alba modesta*, in Korea. *J. Fac. Agric. Kyushu. Univ.*, 29(1): 23-33.
- Honda, K., Ming, B. Y., and Tatsukawa, R. (1985) Heavy metal distribution in organs and tissues of the Eastern Great White Egret, *Egretta alba modesta*. *Bull. Environ. Contam. Toxicol.*, 35: 781-789.
- Subramanian, A. N., Tanabe, S., Hidaka, H. and Tatsukawa, R. (1986) Bioaccumulation of organochlorines (PCBs and *p,p'*-DDE) in Antarctic adelic penguins (*Pygoscelis adeliae*) collected during a breeding season. *Environmental Pollution*, Ser. A. 40(2): 173-189.
- Tanabe, S., Subramanian, A. N., Hidaka, H. and Tatsukawa, R. (1986) Transfer rates and patterns of PCB isomers and congeners and *p,p'*-DDE from mother to egg adelic penguin (*Pygoscelis adeliae*). *Chemosphere*, 15(3): 343-351.
- Submaranian, A. N., Tanabe, S., Hidaka, H. and Tatsukawa, R. (1986) Distribution and transfer of organochlorines in adelic penguins (*Pygoscelis adeliae*). *Mem. Natl. Inst. Polar Res.*, (40): 423-433.
- Tanaka, H., Ogi, H., Tanabe, S., Tatsukawa, R. and Oka, N. (1986) Bioaccumulation and metabolism of PCBs and DDE in short-tailed shearwater *Puffinus tenuirostris* during its transequatorial migration and in the wintering and breeding grounds. *Mem. Natl. Inst. Polar Res.*, (40): 434-442.
- Honda, K., Ming, B. Y. and Tatsukawa, R. (1986) Distribution of heavy metals and their age-related changes in the Eastern Great White Egret, *Egretta alba modesta*, in Korea. *Arch. Environ. Contam. Toxicol.*, 15: 185-197.
- Honda, K., Yamamoto, Y., Hidaka, H. and Tatsukawa, R. (1986) Heavy metal accumulations in Adelic penguin, *Pygoscelis adeliae* and their variations with the reproductive processes. *Mem. Natl. Inst. Polar Res.*, 40:443-453.
- Honda, K., Nasu, T. and Tatsukawa, R. (1986) Seasonal changes in mercury accumulation in the Black-tailed Kite, *Milvus migrans lineatus*. *Environ. Pollut.*, 42(4): 325-334.
- Subramanian, A. N., Tanabe, S., Tanaka, H., Hidaka, H. and Tatsukawa, R. (1987) Gain and loss rates of biological half-life of PCBs and DDE in the bodies of adelic penguins. *Environ. Pollut.*, 43(1): 39-46.
- 李斗杓・本田克久・立川涼 (1987) 日本および韓国産鳥類の組織中重金属分布の比較研究.

- 山階鳥類研究所研究報告, 19(2): 103-116.
- Kawano, M., Inoue, T., Wada, T., Hidaka, H. and Tatsukawa, R. (1988) Bioconcentration and residue patterns of chlordane compounds in marine animals: invertebrates, fish, mammals and seabirds. *Environ. Sci. Technol.*, 22: 792-797.
- Lee, D. P., Honda, K., Tatsukawa, R. and Won, P. O. (1988) Heavy metal accumulation in the livers of waders in the Naktong estuary. *Bull. Inst. Ornithol. Kyung Hee Univ.*, 2: 17-21.
- Lee, D. P., Honda, K., Tatsukawa, R., Min, B. Y. and Won, P. O. (1988) Accumulation of heavy metals in birds from Korea. *Bull. Inst. Ornithol. Kyung Hee Univ.*, 2: 22-31.
- Lee, D. P., Honda, K., Tatsukawa, R. and Won, P. O. (1989) Distribution and residue level of mercury, cadmium and lead in Korean birds. *Bull. Environ. Contam. Toxicol.*, 43(4): 550-555.
- Honda, K., Kan, S. and Tatsukawa, R. (1989) High residue levels and detoxification processes of mercury in pelagic seabirds from the North Pacific Ocean. *Proceed. of Heavy Metals in the Environment*, 7th International Conference, Geneva, Switzerland, Sept., 1. 546-549.
- Honda, K., Lee, D. P. and Tatsukawa, R. (1990) Lead poisoning in swans in Japan. *Environ. Pollut.*, 65:209-218.
- Honda, K., Marcovecchio, J., Kan, S., Ogi, H. and Tatsukawa, R. (1990) Metal concentrations in pelagic seabirds from the north Pacific Ocean. *Arch. Environ. Contam. Toxicol.*, 19: 704-711.
- Yamashita, N., Shimata, T., Tanabe, S. and Tatsukawa, R. (1992) Cytochrome P-450 forms and its inducibility by PCB isomers in black-headed gulls and black-tailed gulls. *Mar. Pollut. Bull.*, 24(6): 316-321.
- Yamashita, N., Tanabe, S., Ludwig, J. P., Kurita, H., Ludwig, M. E. and Tatsukawa, R. (1993) Embryonic abnormality and organochlorine contamination in double-crested cormorants (*Phalacrocorax auritus*) and Caspian tern (*Hydroprogne caspia*) from the upper Great Lakes in 1988. *Environ. Pollut.*, 79(2): 163-173.
- Ludwig, J. P., Auman, H., Kurita, H., Ludwig, M. E., Cambell, L. M., Giesy, J. P., Tillit, D. E., Jones, P., Yamashita, N., Tanabe, S. and Tatsukawa, R. (1993) Caspian tern reproduction in the Saginaw Bay ecosystem following a 100-year flood event. *J. Great Lakes Res.*, 19(1): 96-108.
- Kim, E. Y., Murakami, T., Saeki, K. and Tatsukawa, R. (1996) Mercury levels and its chemical form in tissues and organs of seabirds. *Arch. Environ. Contam. Toxicol.*, 30(2): 259-266.
- Kim, E., Ichihashi, H., Saeki, K., Atrashkevich, G., Tanabe, S. and Tatsukawa, R. (1996) Metal accumulation in tissues of seabirds from Chaun, northeast Siberia, Russia. *Environ. Pollut.*, 92(3): 247-252.
- Guruge, K. S., Tanabe, S., Iwata, H., Tatsukawa, R. and Yamagishi, S. (1996)

- Distribution, biomagnification, and elimination of butyltin compound residues in common cormorants (*Phalacrocorax carbo*) from Lake Biwa, Japan. *Arch. Environ. Contam. Toxicol.*, 31(2): 210-217.
- Kim, E. Y., Saeki, K., Tanabe, S., Tanaka, H. and Tatsukawa, R. (1996) Specific accumulation of mercury and selenium in seabirds. *Environ. Pollut.*, 94(3):261-265.
- Guruge, K. S., Tanabe, S., Fukuda, M., Yamagishi, S. and Tatsukawa, R. (1997) Comparative tissue distribution of butyltin compounds in common cormorants (*Phalacrocorax carbo*) from Japan. *Toxicol. Environ. Chem.*, 58: 197-208.
- Guruge, K. S., Tanabe, S., Fukuda, M., Yamagishi, S. and Tatsukawa, R. (1997) Accumulation pattern of persistent organochlorine residues in common cormorants (*Phalacrocorax carbo*) from Japan. *Marine Pollut. Bull.*, 34(3):186-193.
- Hoshi, H., Minamoto, N., Iwata, H., Shiraki, K., Tatsukawa, R., Tanabe, S., Fujita, S., Hirai, K., and Kinjo, T. (1998) Organochlorine pesticides and polychlorinated biphenyl congeners in wild terrestrial mammals and birds from Chubu Region, Japan: interspecies comparison of the residue levels and compositions. *Chemosphere*, 36(15): 3211-3221.
- Iwata, H., Tanabe, S., Iida, T., Baba, N., Ludwig, J. P. and Tatsukawa, R. (1998) Enantioselective accumulation of α -hexachlorocyclohexane in northern fur seals and double-crested cormorants: effects of biological and ecological factors in the higher trophic levels. *Environ. Sci. Technol.*, 32(15): 2244-2249.
- Kim, K. Y., Goto, R., Tanabe, S., Tanaka, H. and Tatsukawa, R. (1998) Distribution of 14 elements in tissues and organs of oceanic seabirds. *Arch. Environ. Contam. Toxicol.*, 35(4): 638-645.
- 立川涼 (1999) 野生動物の重金属蓄積はどのようにして決まるかー その測り方と読み方。くろしお (高知大学黒潮圏研究所所報), (13) : 6-13.
- Saeki, K., Okabe, E., Kim, E. Y., Tanabe, S., Fukuda, M. and Tatsukawa, R. (2000) Mercury and cadmium in common cormorants (*Phalacrocorax carbo*). *Environ. Pollut.*, 108(2): 249-255.

● 報告書等 (鳥類に関し特に重要なもの)

- 立川涼 (1973) 鳥類の残留毒性に関する研究 I - 有機塩素化合物. 環境庁委託研究報告書, pp. 1-52.
- 立川涼・松田宗明・本田克久・森山公恵 (1974) 鳥類の残留毒性に関する研究 II - 重金属汚染調査. 環境庁委託研究報告書, pp. 1-68.
- 立川涼・松田宗明・福島実・南里夏雄・田辺信介・高橋雄二・和泉一則・小川恒彦 (1976) 鳥類の残留毒性に関する研究 III - フタル酸エステルおよび重金属汚染調査. 環境庁 (自然保護局) 委託研究報告, pp. 1-82.

● 著書

(鳥類に関するもの)

Honda, K. and Tatsukawa, R. (1985) Comparative biology of heavy metal accumulations in marine mammals, birds and some other vertebrates. *In*, Heavy Metals in the Environment. Vol. 1, Lekkas, T. D. (ed.) CEC Consultant Ltd., Edingburgh, pp. 706-708.

Falandysz, J., Yamashita, N., Tanabe, S., Tatsuawa, R., Mizera, T. and Jakuczun, B. (1994) Highly toxic non-ortho-chlorine substituted coplanar PCBs in white-tailed sea eagles *Haliaeetus albicilla* from Poland. Raptor Conservation Today, Meyburg, B. U. and Chancellor, R. D. (eds.) The Pica Press, WWGBH, pp. 725-730.

(一般書)

立川涼(1995)『環境化学と私一道後平野から世界へー』創風社出版

立川涼(編)(1999)『提言ダイオキシン緊急対策』かもがわ出版

立川涼(1999)『これからの大学 これからの地球-高知大学と私』南の風社

立川涼(2007)『21世紀を想う-教育・環境・諸事』創風社出版

【学会・社会活動】

環境毒性学会、環境科学会、日本環境化学会、大気環境学会、日本ウミガメ協議会、日本海水学会、日本海洋学会、日本化学会、日本公衆衛生学会、日本水産学会、日本生態学会、日本地球化学会、日本土壌肥料学会、日本鳥学会、日本熱帯生態学会、日本農芸化学会、日本農薬学会、日本分析化学会、日本水環境学会、日本陸水学会、American Chemical Society, International Society of Soil Science, International Association of Water Quality, Society of Environmental Toxicology and Chemistry, Society of Marine Mammalogy 等の会員

環境庁瀬戸内環境保全審議会委員、厚生省食品衛生調査会臨時委員、運輸省海上保安庁水路部非常勤研究官ほか、国・地方自治体審議会等委員多数

【受賞・表彰】

- ・ 愛媛県政表彰 (愛媛県 1981年)
- ・ 功労賞 (日本水環境学会 1992年)
- ・ 放送文化賞 (日本放送協会 1993年)
- ・ 三宅賞 (地球化学研究協会 1998年)
- ・ 日本引用最高荣誉賞 (ISI 2000年)
- ・ 瑞宝重光賞 (2007年)

立川涼氏へ山階芳麿賞の贈呈理由

山階芳麿賞選考委員長 山岸 哲

立川涼氏は、超微量分析の手法によって、人間活動に由来する有機塩素化合物や重金属などの汚染物質の、生態系における分布、挙動、影響などを明らかにされました。中でも PCB やダイオキシン類が、水質、大気、生物、人体や母乳に至るまでを広く汚染している実態や、カドミウムや水銀などの重金属類による地球規模での汚染の実態について、生態系の頂点に立つ海棲哺乳類や、海鳥類、大型魚類を初めとするさまざまな生物を対象として、組織部位別、年齢別の詳細な分析から明らかにされ、有害物質が食物連鎖をたどりながら生物濃縮されてゆく実態を究明されました。

その過程で、鳥類に限っても、種や生息環境によって有害物質の蓄積の状況が異なることを示されました。また、長寿命高等動物においては、妊娠や産卵といったそれぞれの分類群特有の生物過程によって有害物質の蓄積に変動があることを明らかにされ、鳥類では特に産卵、換羽、渡りなどの過程で体内の蓄積に劇的な変化が生ずる点で、他の分類群の動物と際だった差異があることを示されました。

また、環境化学の教育に力を注ぎ、東南アジア諸国などの発展途上国の留学生も積極的に受け入れ、汚染物質研究における国内外の人材育成に大いに尽力されました。

そして、さまざまな分類群における汚染の実態を明らかにすることにより、社会に警鐘を鳴らすとともに、国や地方自治体の環境政策に大きく貢献されました。

このように、立川涼氏の研究は、人間活動由来の汚染物質による生態系ならびに生物多様性への影響についての研究の礎を築かれたものであり、氏の後進の教育、社会への啓蒙の功績、ならびに環境行政への貢献もまた目覚ましいものと考えられます。氏の研究対象は鳥類に限定されていませんが、上記のように鳥類での成果は極めて重要なものです。そこで、山階芳麿賞選考委員会は、鳥類の学術研究と保護の功績を重視して選考する山階芳麿賞に誠にふさわしいものと判断し、第 15 回山階芳麿賞を立川涼氏に贈呈することにいたしました。

お知らせ：

第 15 回山階芳麿賞贈呈式について

第 15 回 (平成 20 年度) 山階芳麿賞の贈呈式と受賞者の記念講演を下記日程で開催する予定です。詳細が決定しましたら、改めてお知らせいたします。

【名称】 第 15 回山階芳麿賞贈呈式と受賞記念講演

【日時】 平成 20 (2008) 年 9 月 23 日 (火・祝)

【場所】 有楽町朝日ホール

【内容】

- ・ 贈呈式
- ・ 受賞記念講演 (立川涼氏)